

新・活動拠点 「鶴ヶ谷地区社会福祉協議会 福祉センター」が オープン

鶴ヶ谷地区社会福祉協議会（鶴ヶ谷地区社協）では、鶴ヶ谷市民センター別棟を借り受けて「鶴ヶ谷地区福祉センター」として、地域福祉活動の拠点として活用していましたが、この度の東日本大震災の影響で建物が使用できなくなってしまいました。

「拠点がなくては活動がうまく進まない」ということから、鶴ヶ谷地区社協では、8月から新築の市営住宅の一室を借りて、新たな活動拠点を設けました。

鶴ヶ谷地区は市内でも高齢化率が高い地域で、今回の東日本大震災においては、家屋、マンション等の倒壊、被害は甚大でした。このような状況の中で、震災時の対応と課題を地域の中で共有するために、10月6日、福祉諸団体の懇談会が開かれました。新しい活動拠点を軸として、地域のネットワークがさらに強くなることが期待されます。



外からも分かりやすい場所にあります。



11団体が集まって情報交換が行われました。

心あたたまるご寄付ありがとうございました

[平成23年2月～10月末]

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| ●匿名様 10,000円 | ●匿名様 1,000円 |
| ●前田道路株式会社 東北支店様 100,000円 | ●大波 とも子様 3,500円 |
| ●みちのくフリーマーケット協会様 5,000円 | ●匿名様 100,000円 |

法人会員加入のお願い

本会の地域福祉事業に、ご賛同・ご支援いただける企業様を募集しております。

法人会費 **1口 10,000円**

●宮城野区社協広報紙「みやぎの」は、皆様からの会費で作成しています●

ふれあいネットワーク



仙台市宮城野区社会福祉協議会

仙台市宮城野区ボランティアセンター

〒983-0841
仙台市宮城野区原町3丁目5番20号 メゾン坂下1階
電話 022-256-3650
ファックス 022-256-3679
メール fureai-network@miyagino-shakyo.jp
ホームページ ... <http://www.miyagino-shakyo.jp/>



UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

笑顔咲く地域のための情報誌

みやぎの

仙台市宮城野区
社会福祉協議会

37号

2011.12.01

特集
テーマ

3.11東日本大震災 被災者・被災地を 支える人たち

特集1

災害ボランティアセンターの「舞台裏」 ～ボランティア活動を支えた人たち～

特集2

福祉避難所って何だろう？ ～高砂老人福祉センターの事例～

地域
情報

新・活動拠点「鶴ヶ谷地区社会福祉協議会
福祉センター」がオープン

災害ボランティア センターの皆さん

たくさんの方が災害ボランティアを
支援してくださいました。
心より感謝申し上げます。



運営スタッフの合言葉

ボランティアの運営スタッフ

民間企業からのご提供

ボランティアからのメッセージ

「社会福祉協議会」とは？

誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を、地域の皆さんと一緒に考え、取り組む団体です。

特集
1

災害ボランティアセンターの「舞台裏」

～ボランティア活動を支えた人たち～

「災害ボランティア」というと、被災地で片づけや泥かきをするボランティアの姿がイメージされますが、こうした活動を支えた人たちがたくさんいました。今回は、災害ボランティアを支えた人たち、災害ボランティアセンターの「舞台裏」をご紹介します。



ボランティアの作業は、家屋内外の泥のかき出しが中心でした。季節が梅雨から夏期に移りゆく中、毎日暑い日が続いたので、怪我や病気の発生が心配されました。ボランティアには、特に熱中症に十分気をつけて活動していただくように、マッチングの際に水分補給や休憩時間の確保を呼び掛けました。大いに役立ったのが、たくさんの個人、民間企業から寄贈された熱中症対策のためのスポーツドリンク、塩アメ、冷却グッズでした。

ボランティアは、マスク、ゴーグル、長袖、胴長、長靴を身につけて、シャベル、土のう袋などをもって活動に出発。全身泥まみれになって帰ってきます。それらの装備、道具は毎日活用するため、災害ボランティアセンターの運営スタッフが毎日きれいに水洗いや消毒をしました。必要があれば、修理や補充をして、翌日の活動が安全に行われるように備えました。こうした取り組みのおかげもあって、大きな事故や怪我、病気の発生はありませんでした。



スポーツ飲料、塩アメをたくさんいただきました。



毎日使う手袋もいつも清潔です。



▲大勢のボランティアに活動内容を説明する学生の運営スタッフ。

運営にあたっては、社協職員に加えて、登録ボランティア、地域住民、大学生、そして、たくさんの団体、民間企業が運営スタッフとして、あるいはボランティアとして長期にわたり活動していただきました。

また、ボランティア依頼をいただいた方々から「ボランティアに感謝したい」などたくさんのメッセージをいただきました。災害ボランティアセンターでは、いただいたメッセージを、ボランティアに参加した方々のメッセージとともに壁に張り出し、ボランティア活動の励みにしていました。

震災発生から月日が経過するとともに、被災者・被災地のニーズも変わってきています。一日も早い復旧・復興に向けて、宮城野区社会福祉協議会では、様々な個人、団体、NPO等と連携しながら、そうしたニーズへの変化にも柔軟に対応していきたいと思ひます。



多くの企業が連日ご協力いただきました。



▲ボランティアを派遣したお宅から寄せられた「ありがとうメッセージ」。

※仙台市内における災害ボランティア活動は、現在、「復興支援“EGAO(笑顔) せんだい”サポートステーション」(場所: 仙台市福祉プラザ4階 Tel: 022-266-6805)にて行われております。

特集
2

福祉避難所って何だろう？

～高砂老人福祉センターの事例～



Q 福祉避難所*とはどのような避難所ですか？

A 指定避難所での生活が難しい要介護の方々や認知症あるいは障害のある方々を受け入れる避難所で、避難者への食事の提供(介助を含む)のほか、トイレ介助、就寝中の見守り、服薬管理、体調管理等を行います(医療行為を必要としている方、病院入院患者は対象外です)。仙台市からの要請を受けて開設することになっており、避難する避難者も仙台市が選定します。

*宮城野区内では、6施設が福祉避難所となりました。

Q いつから開設したのですか?何名の方が避難されたのですか？

A 震災当日の3月11日から開設し、6月30日まで運営していました。避難者数は延べ573名にのぼりました。当センターに併設するデイサービスセンター、ケアプランセンター等の利用者が避難しました。また、市内の指定避難所、あるいは、他の福祉避難所からの移送により避難された方もおります。福祉避難所を閉所する直前は、避難者の今後の生活支援が中心になり、避難者が仮設住宅、民間の賃貸住宅等へ入居が決まり、安心して運営を終えることができました。



▲避難者の寝床の確保も苦労しました。

Q 運営状況などをお聞かせください。

A 初期の段階では、電話、電気、ガス、水道のライフラインが途絶えたため、情報がなく、連絡がとれない、周囲の被害状況等がつかめず、避難者、職員ともども困惑し、不安と恐怖心も入り混じって、パニック状態に近いものがあつたと思います。備蓄している食料はありませんでした。隣接する高砂市民センターを通じて近隣の企業、商店等から食料を分けていただいたり、ボランティアで炊き出しをしていただいた企業やお店のご厚意にあずかりました。日頃からのつながりの大切さを実感しました。また、お店が開いてからは、職員が長蛇の列に並んで食料を買い出して調理をして避難者に食事を提供しました。福祉避難所は24時間体制です。職員の中には自宅や家族が被災した職員もいましたが、「みんなで頑張ろう」と職員全員が交代勤務で対応しました。



▲医師もかけつけ、避難者の健康状態をチェック。

—古瀬館長と吉田主任にお話を伺いました。ありがとうございました。

高砂老人福祉センター

60歳以上の仙台市民が原則無料で利用できる施設で、民謡、詩吟、ダンス、大正琴等の様々な教室も開かれている施設です。
(併設) 高砂デイサービスセンター・社協高砂ケアプランセンター・高砂地域包括支援センター
・開館時間: 9時30分～16時30分
・休館日: 月曜日、祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は開館し、火曜日、水曜日が休館)
・所在地: 宮城野区高砂1丁目24-9
・電話: 022-259-7860 FAX: 022-259-7882
(注) 高砂老人福祉センターは、社会福祉法人仙台市社会福祉協議会が指定管理者として運営しています。

